

東久留米市立第九小学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力が低かったり、言葉の使い方を知らなかったりする児童が多い。 ・叙述に即して自分の考えをまとめて発表することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内や家庭学習で、語彙を増やしたり言葉の活用を学んだりできるワークシートやプリント等を用意し、繰り返し練習させる。 ・文章の読み取りに関わるキーワードに印をつけ、自分が思ったことをまとめられるようなワークシートを活用して発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやプリントにて、85%以上の児童が8割以上の得点を取れるようにする。 ・全体の90%以上の児童が叙述に即して自分の考えをまとめることができたかワークシート等を通して見取る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を解く際、文章を読んで立式することができない児童が多い。 ・量的感覚や数的感覚が乏しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んでイメージできるように絵や図を描かせたり、こちらが提示してわかるように工夫する。 ・具体物を用意し、数値だけではなく、実際の大きさや重さ等に触れさせて感覚を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テストやプリントにて、全体の90%以上が文章を通して正しく立式できるようにする。 ・全体の80%以上の児童が自分の考えを絵や図でノートにまとめられているか見取る。 ・量的感覚や数的感覚のテストにおいて80%以上の児童が8割以上の得点を取れるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の正しい使い方が身に付いていない児童が多い。 ・興味をもって実験に取り組むが、記録や考察、結論に結び付けることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使い方の手順を示して手本を見せたり、誤った使い方をするとどのようなことが生じるかを伝えたりして、正しい実験器具の使い方を身に付けさせる。 ・何を学ぶための実験なのか、何を根拠に結論を出すのか、全体で共通理解をすることで目的やねらいの明確化を図る。また、単元の最後には振り返りの時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の使い方についてのワークテストの見取りや実験の様子から90%以上の児童が理解しているかを見取る。 ・実験を行った後、記録や考察をもとに個人で結論を書く時間を確保し、単元ごとにノートへの記述事項で評価する。年度末には、80%の児童が自分の言葉で結論を書けるようにする。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を振り返り、道徳的価値について考えたことを書ける児童と、書けない児童の差がある。 ・道徳的価値について考えたことが、実生活の中で実践できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や道徳的価値に向き合うために、書く時間を十分に確保する。 ・既存の価値観を揺さぶる発問をする。 ・一週間に一度、学校生活や日常生活における自分の行動を振り返る時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや授業の様子から、90%以上の児童が書くことができているか見取る。 ・学校生活の児童の様子から、80%以上の児童が道徳的価値を意識して行動できているか見取る。